



初めて開倫塾塾長通信をお読みの皆様へ

ごあいさつ

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 本年 7 月に開校させて頂きました開倫塾さくら校(栃木県さくら市)、開倫塾真岡校(栃木県真岡市)の塾生、保護者、地域社会の皆様、また、開倫塾の夏期講習会に御参加の塾生、保護者の皆様に一言ごあいさつをさせていただきます。

私は、開倫塾の創業者で、開倫塾全体の代表者である塾長の林明夫でございます。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

2. この開倫塾塾長通信は、毎月 1 日発行の「開倫塾ニュース」を補うものとして、塾長である私が教育や世の中の動きについて日頃考えていることや勉強させて頂いたことの中で皆様とともに考えさせて頂きたいことを、毎月の「開倫塾ニュース」とともにお届けいたしているものです。

拙い内容とは思いますが、御参考までに御一読頂ければ幸いです。通常かなりの分量になりますので、お読みになるときは、ラインマーカーや赤ボールペンなどを御用意なさり、参考になると思われるところは印をお付けになることを予めお勧め申し上げます。

3. また、もし可能であれば、開倫塾ニュースとともに同じ場所にファイルして頂き、折に触れお読み頂ければ幸いです。尚、私の書いたものは、開倫塾のホームページ中の林明夫のページに載せて頂いておりますので、是非御高覧下さい。

(1)「開倫塾ニュース」巻頭言、(2)この「塾長通信」のバックナンバー、(3)23年間続いている CRT 栃木放送の「開倫塾の時間」の速記録、(4)主に東京都の公立中学校や高等学校での出張授業の講義資料、(5)客員教授をしている宇都宮大学大学院工学研究科の講義資料、(6)私が今までに読んだ本や雑誌などの中で皆様に御参考になるかも知れないとの思いでほぼ毎日書き抜いている「書き抜き読書ノート」、(7)東京や栃木、群馬の経済同友会等で考えた内容のメモ「丸の内通信」、(8)20年近く書き続けた月刊誌「みにむ」のバックナンバー、(9)学習塾・予備校・私立学校の経営者のための月刊誌「私塾界」に依頼されたコラム「林明夫の歩きながら考える」の原稿、(10)読売新聞宇都宮支局からの依頼で執筆中のコラム「とちぎ寸言」の原稿、委員を務める栃木県教育委員会議での発言内容

以上のような内容が入っている個人ホームページです。ほぼ毎日、更新させて頂いております。いつの日か「お気に入り」のお仲間に入れて頂き、日に 1 回は御覧頂けるような内容になればとの思いであります。

4．開倫塾はお陰様で今秋で創業 30 周年を迎えます。栃木県ではじまりましたので現在は栃木県を中心に校舎を開校しておりますが、お陰様で栃木県全域での校舎展開が完了しつつありますので、今後は内容の充実に全精力を傾注いたします。同時に、群馬県、茨城県においても少しずつ校舎を展開させて頂き、群馬県、茨城県の各地域の教育レベルの向上に少しでもお役に立てればとの思いであります。

5．開倫塾の特徴は「一流校全員合格」です。開倫塾の一流校の定義(ことばの意味)は「自分の進学したい学校」です。「自分の進学したい学校」つまり「自分にとっての一流校」合格に向けて、塾生は自分で決めたのですから最大限努力をする。それを、開倫塾は保護者の皆様、地域社会、ビジネスパートナーの皆様のお力をお借りしながら全力を尽くして支援する。このような学習塾であります。

「得意分野はどんどん伸ばす、偏差値 70 以上にまでもっていく。」「開倫塾の中では一人の落ちこぼれもつくりたくない、全員にうんなるほどと理解させる、理解したことを定着させ自分にとっての一流校に合格するだけの得点力を身につけさせる。」このことを開倫塾の使命にしております。

6．開倫塾での教育内容について、ご意見ご希望のある場合には、是非担当校長やクラス担任にご相談下さい。必要な場合には開倫塾本部 0120-66555 の塾長林明夫、塾長室室長高尾初江、総務部長島田広志までご相談下さいますようお願い申し上げます。

塾長紹介

- ・開倫塾 塾長
- ・学校法人 友朋学園 東日本高等学院 理事長(福島市)
- ・栃木県社会教育委員(栃木県教育委員会)
- ・宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授
- ・マニー株式会社(ジャスダック・Jストック、手術用縫合針製造) 社外取締役
- ・社団法人 経済同友会(東京) 幹事
- ・社団法人 栃木県経済同友会 幹事
- ・開倫ユネスコ協会 会長

「目には遠いが心は近い」

- 私の好きな言葉(2) -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：夏休みですので、塾長の好きな言葉をもう少し紹介して下さい。

A：(林明夫。以下省略)

(1) 「目には遠いが心は近い」

これは、インドのことわざだそうです。遠く離れたところに住んでいて普段はあまり会うことができないが、お互いのことを思い合っている、同じ志(こころざし)を持って生きているなどの様子をあらわす素晴らしい言葉です。

(2) 「教育ある人とは勉強し続ける人である」

これは、経営学の大家であるピーター・ドラッカー先生の言葉です。

学校での勉強も大切ですが、もっと大切なのは学校を卒業してからの勉強です。我々に役に立つ大切な新しい知識や情報、技術が日本だけではなく世界中でどんどん生まれていますので、その中で最も大切なものだけでも新しく勉強し直すことが、これからは大事です。

そのような意味で、ドラッカー先生は「教育ある人とは学び続ける人」と言ったのだと思います。

私は、自分の夢をかなえるためには、学校での勉強も大切であるけれども、学校での勉強を基礎にして死ぬ前の日まで勉強し続けることが素晴らしい生き方だと考えます。

塾生の皆様に私が言いたいのは、大事なものはこれからだということです。今までの成績は変えることはできません。「教育ある人」というのは、今日からあと、少しずつでもよいから、自分の夢や希望の実現に向けて自分のやり方で、死ぬ前の日までずっと勉強し続ける人を言います。

ドラッカー先生は、96歳でお亡くなりになる直前までずっと勉強し続け、その成果を文章にし、私たちにお示し下さいました。素晴らしい生き方だと私は考えます。

(3) 「持続する志(こころざし)」

この言葉は、ノーベル文学賞作家の大江健三郎先生のものであります。

志(こころざし)は、高ければ高いほどよい。ただ、大切なのは、その高い志(こころざし)をずっと持ち続けること、つまり志を持続することだと私は考えます。

私が中学2・3年生の時に、クラス担任の岡田忠治先生から教えて頂いた「ブルドック魂(だまし)。食いついたら離すな」も、同じ意味かと思えます。

どうか塾生の皆様やこの文章をお読みの皆様は志(こころざし)を高く持ち、その志を一生(いっしょうがい)持ち続けて頂きたいをお願いします。

(4) 「If you can dream, you can do it!」

開倫塾ニュースの表紙のKのマークの下に書いてある言葉です。「もしあなたが夢を見ること

ができれば、あなたはそれをすることができる」という意味の英語です。この言葉を合言葉にして、アメリカのヒューストンの宇宙技術者たちは、40年前に人類を月に送り出し、無事に地球への帰還を果たしました。

(5) 「歴史における個人の役割」。

これは、岩波文庫に入っているプレハーノフという人が書いた本の題名です。革命のような大きな出来事の中でも、また、日常の1つ1つの出来事の中でも、それを歴史の1コマだと考えれば、一人ひとりの個人の果たす役割は、あまり過大視してはならないにしても決して小さいとは言えないと私は考えます。だから、革命のためには国家を崩壊させてもよい、人を殺してもよい、何をしてもよいという考えは誤りと私は考えますが、許された手続きの中で、その国や地域、組織のミッション(社会的使命)の達成や発展のために自分個人の果たすべき役割を自覚して、積極的に行動することは尊いこと、高く評価されるべきことだと私は考えます。

「許された手続きの中で」みんなのために役立つことをする、自分の役割を果たすことは、尊いことです。そのグループや組織の「歴史における個人の役割」を果たしたことになると思います。

8月30日には衆議院議員の総選挙が行われます。総選挙に立候補している候補者の皆様は、恐らく一人残らず地域や日本、世界の中で自らの役割を果たそうという強い使命感をお持ちと推測します。その意味で、開倫塾の塾生の皆様は選挙権をお持ちではありませんが、各政党や各候補者がどのような考えを持っているかを、選挙公報や政党のマニフェスト、新聞・ラジオ・TVなどの報道を通して「理解」なさると、よい勉強になると思います。

(6) 「捨てなければ得られない」。

(7) 「本当の月を見たことがあるのか、本当の自分を見たことがあるのか」。

(8) 「人生逃げ場なし」。

(9) 「会った人は、皆友達」。

これら(6)~(9)の言葉は、京都の一燈園で石川洋先生から教わったものです。石川先生は栃木県鹿沼市の御出身で、開倫塾でも何回も講演をして頂き、また、CRT 栃木放送「開倫塾の時間」にも何回も御出演頂いた先生です。

最初の(6)「捨てなければ得られない」という言葉は、自分自身を直視した上で、今本当に必要なことを確実に行いなさいという教えのように私には思えます。皆様にも、やりたいことはたくさんあるかも知れませんね。ただ、よく考えれば全部はできませんから、その中でよく選んで、自分にとって大切なことを行うことが自分自身を生かすことだという考えもあります。

別の言葉で表現すれば、「選択と集中」ということかも知れません。

2 番目の(7)「本当の月を見たことがあるのか、本当の自分を見たことがあるのか」は、たまには自分自身とは何かを冷静に見つめ直すことの大切さを教えてくれると思います。最近の自分の行動を振り返り、自分のよいところ、自分の改めるべきところを素直な心で認めること。その上で、よいところはどうやったら伸ばすことができるか、改めるべきところはどのように改めることができるのかを、自分の力で考えることが大切だと思います。学力や自分の力を伸ばすポイントは、自分のよいところと改めるべきところをよく「自覚」することだと私は考えます。

自分自身を振り返る力、自省する力、省察する力を身につけること(英語でリフレクション reflection と言います)が「思慮深さ」と結びつくと考えます。

3 番目の(8)「人生逃げ場なし」は、課題があったら、そこから逃げないで真正面から立ち向かうことの大切さを教えてくれます。

開倫塾では、自分の行きたい学校を一人ひとりの「一流校」と呼んでいます。開倫塾の目標は、全塾生が自分の行きたい学校、つまり一人ひとりの「一流校」に合格することです。できるだけ早めに、自分の力で自分の行きたい学校を決めて、一度自分の行きたい学校つまり「一流校」を決めたのなら、逃げることなく、その合格に向けて最大限の努力をすることが大事と考えます。自分で決めたのですから「人生逃げ場なし」、最後まであきらめることなく、自分の力で合格をつかみ取ることが大事だと思います。

最後の(9)「会った人は、皆友達」は、とても心温まる言葉で、私の大好きな言葉です。人間と人間の出会いは不思議なものです。その不思議な出会いを大切にしてもらいたいと思います。友達との約束は守ること。しかし、自分との約束を守れない友達を責めないこと。友達のよいところをたくさん探すこと。しかし、友達の欠点は決して口にしないこと。本人にも言わないこと。他の人にも言わないこと。(一生に何回かその人のために意見を述べなければならないときには、よく言葉を選んでできるだけ穏やかな表現でお話すること)

(10)「初心忘るべからず」。

(11)「離見の見(りけんのけん)」。

この(10)と(11)の 2 つの言葉は、能を確立した世阿弥(ぜあみ)のもので、「風姿花伝(ふうしかでん)」「花伝書(かでんしょ)」の作者として有名な舞(まい)の名手世阿弥は、ものごとをはじめたときの心(初心)をいつまでも忘れないようにと教えて下さいました。

舞台上で舞っている自分の姿を離れている観客席に座っている自分が見ることを「離見の見(りけんのけん)」というようですが、一つの芸を極めるにはそのくらいの厳しさが必要であると私たちに教えてくれます。

(12)「^{まな}学^{とき}びて^こ時に^{なら}之^まれを^{よるこ}習^{とも}う、^あ亦^{えんぼう}た^{きた}説^まば^{たの}し^{ひと}から^しずや。朋^{とも}有^{えんぼう}り^{きた}遠^ま方^{たの}より^{ひと}来^しる、亦^{とも}た^{えんぼう}楽^{きた}し^まから^{たの}ずや。人^{ひと}知^しらずして^{いきどお}愠^まらず、亦^また^{くんし}君^し子^しなら^しずや。」

孔子の教えを書き記した「論語」のはじめにある有名な言葉です。

ものごとを習って、それを何回も何回も繰り返し学ぶことにより身につけることは、とてもうれしいことだ。このようにして知識が豊かになれば、道を同じくする友達が遠くからも訪ねて来て学問について話し合うようになる。これも楽しいことだ。自分が熱心に勉強したり行ったりしたことを他人が認めてくれなくても決してうらまない。そのような人は素晴らしい人だ。

論語のこの言葉は、このような意味ではないかと私は思います。

Q：ずいぶんたくさん好きな言葉が塾長にはあるのですね。開倫塾ニュース9月号の巻頭言の15の言葉を合わせると全部で27ですね。こんなにたくさんよく覚えていますね。どのようにして覚えるのですか。

A：私は、本を読んだあと、大切な表現や言葉はできるだけ書き抜き、ノートにまとめるようにしています。そのノートを「書き抜き読書ノート」と名付けて、時々読み返すようにしています。

また、私は、人の話を聞くとその内容をできるだけメモするようにしています。あとで、そのメモを自分でわかりやすいように「整理」をして、時々読み返すようにしています。

私は記憶力があまりよくないので、何回も何回も読み返し、その中でこれは大事だと思うものは「手帳」に書き写し、手帳を開くたびに読み直したりしています。

そうするうちに少しずつ、その意味が自分なりに「これはこのようなことかも知れない」と、ジワッとわかってくるような気がしてきます。

塾生の皆様も、この文章をお読みの皆様も、「書き抜き読書ノート」を是非お作りになり、お気に入りの言葉を書き抜き、何回も何回も繰り返しお読みになることをお勧めいたします。

せっかく本を読んだり、人のお話を聞いたりしても、読み放し・聞き放しにしたのではあまりにも「もったいない」と思います。

Q：最後に一言どうぞ。

A：夏休みですので、「私の好きな言葉」を読んで頂きました。ありがとうございました。

(1)私は、4年前から栃木県教育委員会からの委嘱を受けて栃木県社会教育委員をさせて頂いておりますので、栃木県に限らず、群馬県や茨城県、東京都などの社会教育施設である図書館や美術館、博物館、体育館、公民館、自然体験施設、公園などにとっても強い関心を持っています。

(2)例えば、あちこちに出掛けたときに、近くに図書館などがあれば必ず寄らせて頂き、利用者の立場でしばらく時間を過ごさせて頂くようにしています。

(3) ずっと気になっていることは、図書館を利用する幼稚園生、保育園生、小学生、中学生、高校生、大学生、短大生、専門学校生、専修学校生、大学院生などがとても少ないということです。せっかく貴重な税金で運営されているのに、学校が休みの日や放課後なのに図書館を利用する人があまりにも少ない。これが私の実感です。

(4) 「学校」という教育機関に在籍する間に、図書館の利用の仕方を身につけておくと、一生涯図書館が自分にとって大切な場所(利用価値の高い公共施設)になります。これからは知識が基盤となった社会になることは、誰でも認めることです。是非、学校に在籍している間は週に1回以上図書館を訪れ、どのように活用したらよいか考えてみて下さい。その手前で、学校の図書室には1日1回は行き、たとえ何分間かでも時間を過ごしてみてください。

(5) 学校の図書室や、県や市町の図書館、私設の図書館は、皆様にとっての「宝物」のぎっしりつまった「宝箱」かも知れませんよ。

(6) 栃木県や群馬県、茨城県にはたくさんの大学、短大、専門学校、専修学校があります。そのほとんどは、町民、市民、県民に開放されています。大学の図書館も一定の手続きで(住所や氏名などを書けば)利用できるところがほとんどです。是非「勇気」を持って大学等の図書館にも出掛けてみて下さい。「別世界」がそこにはあるかも知れませんよ。

(7) ちなみに、私は大学の図書館も大好きです。東京都内の大学の図書館は、人口が多いためか利用するには手続きが難しい場合があります。(卒業生は簡単だが、卒業生でない場合は費用や何日かかかる場合があります。)

(8) しかし、栃木県や群馬県、茨城県内の大学は身分証明書(学生証や運転免許証)などを提示し、一定の手続きを踏むだけで、無料で開館時間から閉館時間まで利用できます。自分で持参した教材を勉強することも可能なところがほとんどですので、学校の図書室や公立図書館(県立図書館、市町立図書館)と同じように、是非積極的に利用しようチャレンジしてみましょ。

お願い

- ・ 飲食やおしゃべり、昼寝、ゲーム、携帯電話などをしてはならないことは、どこでも同じです。ページを折ったり、本に書き込みをすることは、どこでも禁止です。
- ・ 貸し出し手続きをしないで本を持ち出すことは犯罪です。窃盗罪つまり「どろぼう」で、刑罰をもって罰せられます。絶対にしてはなりません。

今月のお話はここまでです。

開倫塾ニュース 9月号巻頭言の私の好きな言葉と、「みにむ」というコミュニティ雑誌に1993年に書いた原稿「If you can dream, you can do it!」、それから私が読んだ本の中で参考になると思われる本の書き抜き、CRT 栃木放送「開倫塾の時間」速記録も御参考までにこのあと掲載します。かなりの分量になりますが、よろしかったらじっくりとお読み下さい。

「一生勉強、一生青春」

- 私の好きな言葉 -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：夏休みですので、今回は塾長の好きな言葉を紹介して下さい。

A：(林明夫。以下省略)

(1)「小学生も新聞を読むといいよ」。これは、足利市立山辺小学校の3・4年生の時のクラス担任の岡典子先生から教えて頂いた言葉です。小学生でも新聞を読んでよいと気付き、少しずつですが新聞を読むようになりました。5・6年生のクラス担任の高田健司先生も、本を読むことに加え新聞を読むことを勧めて下さいましたので、新聞を毎日読み、少しだけ大人の仲間入りをしたような感じがしました。

Q：中学校時代の好きな言葉は何ですか。

A：(2)「ブルドック魂(だましぃ)」。これは、足利市立山辺中学校の2・3年生の時のクラス担任の岡田忠治先生から教えて頂いた言葉です。「食いついたら離さない」という意味だそうです。何事も一度始めたら途中で投げ出さないこと。粘り強く、執念をもって励むようにということだと私には思えました。

(3)柔道部監督の椎名弘先生からは、「練習で泣いて、試合で笑え」といつも言われました。2年生の栃木県新人戦や3年生の県大会で団体優勝したチームだったので、練習は相当厳しかったのは当然ですが、椎名先生のこの言葉に励まされ、皆よく練習しました。

椎名先生はまた、「自他共栄」、自分も他人も共に栄えることが大事だという講道館の教えも教えて下さいました。中学生ながら、なるほどその通りだなと思いました。

Q：高校時代の好きな言葉は何ですか。

A：(4)栃木県立足利高校で印象に残っているのは、何ととっても10キロマラソン大会の時の合言葉である「一所懸命」、つまり、一つの所で命を懸けるくらい熱心に物事に取り組もうです。

Q：塾長は、いろいろな学校にいる時に、いくつか好きな言葉を教えられたり、出会ったりしているのですね。大学ではどんな言葉が印象深かったのですか。

A：たくさんあります。

(5)「法律を学んだ人は、いつも最悪の事態を予想して行動すること」。この言葉は、慶應義塾大学法学部法律学科の2年生の時に、法思想史のゼミの担当であった峯村光郎先生から教え

て頂きました。

(6) 峯村先生からは、「外国人との友情を保つ秘訣は、バースデーカードとクリスマスカードを毎年送ること」とも教えて頂きました。筆無精の私はなかなか実行できませんが、皆様に参考になればと思い、御紹介いたします。

(7) 「注意一秒、ケガ一生」。これは、大学3・4年生の時に犯罪の原因や対策を学ぶ刑事政策のゼミで宮沢浩一先生から教えて頂いた言葉です。

(8) 「学校や家庭、社会でちゃんと勉強していれば、このような所に来なくてよかった人ばかりなのに」。大学生の時に、宮沢先生に連れられて訪問したいいくつかの刑務所の所長さんや刑務官の先生から言われた言葉です。

(9) 「独立自尊」。国も個人もともに独立してはじめて自身を尊く感じるができるという慶應義塾の創始者福沢諭吉先生の教えも大好きです。「学問のすすめ」や「福翁自伝」、「文明論の概略」、「西洋事情」などの福沢先生の本は、今読んでも面白く、ワクワクします。

(10) 「練習は不可能を可能にする」。慶應義塾の塾長を務められ、また、スポーツが大好きであった小泉信三先生の言葉です。スポーツに限らず、何にでもあてはまる教えと考えます。

Q：塾長は、大学を卒業してから29歳まで大学の研究室で法律の勉強をして、その後開倫塾を創業したそうですが、開倫塾を始めてからもいろいろな所で、また、一人で勉強をして出会った好きな言葉や印象に残った言葉はありますか。

A：(11) 私は栃木県足利市で育ちましたので、足利市出身の書家、相田みつを先生の言葉が大好きです。相田先生の言葉で一番好きなのは、「一生勉強、一生青春」です。

(12) 「教育ある人とは勉強し続ける人」。これは、経営学の大家、ピーター・ドラッカー先生の言葉です。自分の夢や可能性、よさを伸ばすために、学校時代だけではなく、少しずつでもコツコツとどんなやり方でもよいから自分のやり方で死ぬ前の日まで勉強をし続けることが、人間の生き方として素晴らしい、また、尊いことだと私は考えます。

(13) 「いつまでも若々しく生きる」。これは、日本にヨガを紹介した中村天風先生の言葉です。高齢化社会で大切なのは「心の若々しさ」です。

私は「人生は105歳。105歳すぎまでいつまでも若々しく生きる」ことが大事と考えます。「35歳まではひたすら勉強。70歳までは仕事や社会活動、よい家庭づくり。70歳からは自由自在に自分らしく生きること」。そう考えます。

(14) 中村天風先生には「成功の実現」という素晴らしい御著書があります。

(15)「自然と精神」。ベイトソンという先生が大切にされた考えです。私の大好きな言葉です。

Q：最後に一言どうぞ。

A：皆様も、大切に、大切にしている言葉がいくつかあると思います。時々、ノートや日記、手帳に書き出してみて、その意味をじっくり考えると、自分自身を見つめ直すよい機会になると思いますよ。

- 2009年7月21日記 -

月刊誌「みにむ」1993年4月号 開倫塾の時間

林 明夫

IF YOU CAN DREAM, YOU CAN DO IT!

- 自分の人生に夢をもとう -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 今回は、新年度を迎えるにあたって、とっておきのよいことばを覚えて下さい。ノートに書き取ったり、大きな紙に書き写して部屋にはったりして毎日口にすると、皆さんの人生にとっても非常によいことばになります。何と英語です。

If you can dream, you can do it!

If(もしも)you(あなたが)can(できる)dream(夢を見ることが)「もしあなたが夢を見ることができれば」、you(あなたは)can(できる)do(することが)it(それを)！「あなたはそれをする事ができる」という意味です。

2. このことばは、私が1987年10月にアメリカに行き、アメリカに住む日本人の子どもたちはどのように勉強しているのか、アメリカの専門学校・短大・大学はどのように経営されているのかを勉強してきた際に教わりました。

(ちなみに、アメリカで最初の朝を迎えたのは10月19日。ブラック・マンデーと呼ばれる株の大暴落のあった日です。サンフランシスコのホテルの中にいた日米のビジネスマンはみな青ざめた顔をしていました。その後わずかの期間で景気が回復しようとは、その当時は誰も思いませんでした。)

教えて下さったのは、日本企業のアメリカ進出のコンサルタントもなさっておられる Yoshi Sawada 氏で、非常に優秀な方です。

3 . If you can dream, you can do it!

このことばは、アポロその他の人工衛星を打ち上げているヒューストンの技術者の合い言葉だそうです。このことばを唯一のたよりにして、人類を月にまで送り込んだのです。

4 . どうか皆さんも夢をもって積極的に生きて下さい。夢のない人間の生活は、はかなくむなしいと思います。死にたくなる人さえいるそうです。その夢は皆さん一人ひとり違ってあたりまえです。どんな小さなことでもよいですから、自分自身の夢をもって生きて下さい。夢をもつことができ、夢をもち続けさえすれば、必ず夢は達成されます。

(1) 例えば、今英語が伸び悩んでいる人は、自分は英語ができるようになりたいという夢を是非もって下さい。夢をもったら次に、夢を実現するためにはどうしたらよいか、その「プロセス (process)」「手順」を具体的に考えて下さい。どのようにしたらその夢がかなうのか、最も合理的、最も効果的な方法・やり方(「プロセス」「手順」)を真剣に考えて下さい。あとはわき目もふらずその通りやってみるだけです。但(ただ)し、反省は忘れずに。反省をすると、次に同じようなことをやる際に役に立ちます。

(2) 偏差値を今から入試までに5 アップしたい場合も全く同じです。「プロセス」「手順」を「考え抜き」、決めた通りにやってみるだけです。

(3) 勉強以外でも同じです。部活動をやっている人が多いでしょうが、是非チームメイトと来年度の夢を考えて下さい。夢は大きいほどよいです。「県大会」「市大会」「郡大会」で優勝しようとまず決めて下さい。そうすると、夢がもてたことになりますね。その夢を実現するために、次に「プロセス (process)」「手順」を決めればよいのです。合理的な練習方法を徹底的に研究し、実際の試合で勝つ方法についてもあらゆる研究をして下さい。ただダラダラ練習だけして試合に臨んでも、研究熱心なところに負けてしまうのは明らかです。

(4) 誰かに会いたいという夢があったら、その夢をかなえるためにはどうしたらよいか。真剣に「プロセス」「手順」を考えれば、いつの日か必ず会えます。(但し、スターは対象にしないほうが賢明です。)

(5) この文章を読んでいただいている皆様の中には、会社を経営なさっている方も多くおられると思います。会社を伸ばしたいと思ったら、7 年後の 2000 年までにこの会社をどのようにしたいと夢をもって下さい。夢(ロマン)は大きければ大きいほどよく、少なくとも今の売上げの 2 ~ 3 倍は上げようくらいがよいです。(難しいことばで言えば、「長期経営計画」を立てたほうがよいということです。) その夢を実現するためには5年後までにどうしなければならぬか、5年後の夢を達成するためには1年後どうすべきか、そのためには今月、今週、今日、何をしなければならぬかという「プロセス」「手順」を考えるとよいと思います。

5 . (1) 夢を追い求める過程の中で挫折はつきものです。いくらやっても、勉強やスポーツ、仕事の成績は上がらない、上手にできない、誰も自分の言うことを理解してくれない、身も心も疲れる、何もかもうまくいかないと思うことがあるかもしれません。しかし、そんなときこそが大事です。自分で決めた夢ですから、何クソという気持ちで乗り切ってください。「もうダメだ、どうしようもない」などという消極的な考えは一切捨てて、どんなときでも積極的に自分の夢の実現に向けて努力してください。つらいこと・困難なことを乗り越えるたびごとに人間が大きくなり、「人格」なるものが出来上がります。「グチ」や消極的なことばを言えば言うほど人間が小さくなり、まわりにいる人を暗くします。人の悪口もその一つです。

(2) どうせつき合うのなら夢のある人とつき合ったほうが健康的です。あまりにも人の悪口やグチ、消極的なことばかりを口にする人とは、しばらく遠ざかるのも大事なことです。(本気で説得すれば直る人なら別ですが...。)

(3) 私はアメリカに行った時に、このことばを教えて下さった Yoshi Sawada さんと会えてとても幸せであったと感謝しています。是非皆様にもこのことばをお伝えしたくて、紹介させていただきました。

6 . (1) 私の夢は、北関東のあらゆる街に開倫塾を開校し、北関東の生徒の学力を大幅に向上させるお手伝いをすることです。学力の向上が教育のレベルアップにつながり、ひいては地場産業の活性化、日本の繁栄、世界の平和につながると信じるからです。外国にも塾や学校をつくりたいという夢をもっています。

(2) みんなが自分の夢をもち、その夢に向かって「プロセス」「手順」を考え一所懸命頑張れば、いつかきっとすばらしい世界ができるものと信じます。

(3) If you can dream, you can do it! この言葉を合い言葉に頑張りましょう。

書き抜き読書ノート 286

2009年7月11日

池上彰著「小学生から新聞を読む子は大きく伸びる—1日10分の習慣ですごい効果—」

すばる舎 2009年7月27日刊を読む

新聞を読む子と読まない子、人生でここまで差がつく
—世の中が見えている子は、目標も見つけやすい—

1 . さまざまな職業の人の生き様を新聞が教えてくれる

- (1) 2009年6月、NHKのドラマ「風に舞いあがるビニールシート」が放送されました。女優の吹石一恵さん演じる女性が、国連難民高等弁務官事務所で働くという話です。
- (2) このドラマを見て、この組織の活動を知り、「将来は国連の組織で働きたい」と考えた子どももいることでしょう。
- (3) テレビや新聞は、子どもにとってハローワークの役割を果たしてくれます。いままで知らなかった職業を知ったり、なんとなく名前だけは知っている職業が実際にどんな仕事をしているのか理解したり。
- (4) それによって子どもの将来の可能性は広がります。
- (5) 海外での地震災害のニュースを読んで、被災地の救援活動をする国際緊急援助隊に憧れたり、人の命を救う医者になりたいと心に決める子どももいるでしょう。
- (6) あるいは具体的な職業でなくても、地震の原理を知って地質学に興味を持ったり、倒壊する建物を見て建築の世界に関心を持ったりする子どももいるかもしれません。
- (7) ニュースから感じるものは人それぞれですが、社会の出来事に触れることで、自分の将来を考えるきっかけになり得るのです。

2. 私がNHKに入社した理由

- (1) ちなみに私がジャーナリストになろうと決めたのは、小学校6年生のとき、たまたま買った『続 地方記者』（朝日新聞社）という一冊の本がきっかけでした。
- (2) 地方の新聞記者の仕事ぶりを描いた本で、他社の記者と激しい特ダネ競争を繰り広げたり、警察より先に犯人を見つけてしまったりする新聞記者の姿を活写していました。これを読んで、「地方記者ってカッコいい！」と憧れを抱いたのです。
- (3) 中学に入ると、気象現象への興味が膨らんで気象庁の予報官の道も考えましたが、大学で就職活動のときには、結局、子どもころに描いた地方記者への夢がよみがえり、マスコミへの就職を志しました。
- (4) 地方を点々とする記者になるには、全国紙の新聞社か通信社、NHKに就職する必要がありますが、当時はマスコミ各社の筆記試験が同じ日に集中していました。
- (5) 7月1日が朝日、毎日、読売、共同通信、そしてNHK。翌日が日経、産経、時事通信でした。ちなみに、当時民放はほとんどニュースの時間がなく、記者の一般公募はありませんでした。
- (6) 試験のかけ持ちはできないので、1日は朝日新聞とNHKの両方に願書をひとまず提出。ギリギリまで迷った末に、NHKの筆記試験を受けに行きました。その結果、いまの自分があります。

(7) 私が地方記者に強い憧れを抱いたのは、一冊の本との出会いがきっかけです。

(8) ただ、本を読んでピンとくるものがあったのは、ふだんから新聞を読んで記者の仕事にぼんやりと興味を抱いていたからです。いささか特殊かもしれませんが、私の場合も新聞がハローワークの役割を果たしたのです。

3. 早くから目標が見つければ、学ぶ意欲も湧いてくる

(1) 小学生のうちに関心の夢が見えていれば、その夢に向かって早くから準備をすることもできます。

(2) 建築家になりたい子なら、建築物に触れるたびに感動したり発見があったりするはずですが、デザイナーになりたいければ、自分なりにデザインの真似事を始める子もいるでしょう。

(3) 子どものころの夢は、コロコロと変わりますが、こういった経験を繰り返すことで子どもの中に蓄えられていく知識や考える力は、かけがえのないものです。

(4) 目標に向かって自分から積極的に学び、その過程で新たな自分を発見し育てていく。

(5) 人はそうして、自分の望む人生を勝ち取っていく自信をつけていくのではないのでしょうか。

(6) 遅かれ早かれ、子どもは自分の進路について真剣に考えなければいけない時期がやってきます。

(7) 子どもは大人に比べて知識や経験が足りないのですから、夢が変わっても、夢がたくさんあってもいいのです。むしろ、たくさんあったほうが得るものは多いでしょう。

(8) そのためにも、広い世間を見せることはとても意味のあることです。

(9) 今日からでも、子どものそばに新聞を置いてあげてみてください。

[コメント]

この通りです。私は、小学生は1日20分、中学生は40分、高校生は60分新聞を毎日読んで考えよう、新聞を読んで批判的なものの考え方を身につけよう、新聞を読んで自分の力でものを考えることのできる人になろう。思慮深い人になろう、新聞を読んで将来の自分を考えよう、新聞をハローワークとして活用しようと思われ強く訴えさせて頂きたく思います。

- 2009年7月11日林明夫記 -

親野智司等著「小学生の学力はノートで伸びる」すばる舎 2009年5月25日刊を読む

伸びていく子はノートの使い方が違う

1. 落ち着いて授業を受けられる子は理解も早い

(1) 書くことが楽しくなれば、子どもは授業でノートを取るのも好きになります。ハードルが低く感じられるのでしょうか。どんどん書いていくようになります。

(2) 子どもにとって学校生活は、初体験の連続です。

とくに低学年のうち、授業で緊張している子もいます。先生の指示どおりのことをこなすだけで、大変なエネルギーと集中力を必要とするのです。

(3) でも、書くことに慣れている子は、落ち着いて授業を受けることができます。

勉強のペースができていますから、それは当たり前のことなのです。

それに「ノートと仲良し」ですから、心強いのです。あとは、上手なノートの使い方をちょっとアドバイスしてあげればいいだけです。

(4) 小学校時代、勉強とノートは切っても切れない関係にあります。

上手な使い方を身につけることは、子どもの心にゆとりを生み、どんどん吸収力を高めてくれる効果もあるのです。

2. できる子の授業ノートはどうなっている？

(1) ところで、上手な使い方って、何でしょう？

いざ、そう問われてみると、具体的に頭に浮かばないのではないのでしょうか。

そこでまず、次ページの2つのノートを見比べてください。

(2) ここに2つの算数のノートがあります。

(3) 一見すると、右のノートはとてもきれいです。字がきれいで、丁寧に書いています。

でも、先生が「6問目の問題を見てごらん」と言ったら、どうでしょう。

6問目を探すのに、1問目から数えなければなりません。これでは、上手な使い方とは言えないわけです。

(4) いっぽう、左のノートは字に力がなく、ふにゃふにゃです。

でも、式の頭が揃っていますし、それぞれの問題に番号が振ってあります。

誰が見てもすぐに「6問目」がどこにあるかわかります。

(5)つまり、ノートの使い方という点ではこちらの方がいいわけです。

3. ノートは「丁寧」がすべてではない

(1)ノートの上手な使い方とは、「丁寧に書くこと」だとお考えの方がたくさんいらっしゃると思います。

(2)たしかに、それも大事です。字が丁寧なノートは読みやすいですし、誰が見ても気持ちがいいものです。

(3)でも、それだけでは十分ではありません。
もっと大事なのは、「構造的に書く」ということです。

(4)なぜなら、ノートを構造的に整理して書くことで、情報を構造的に理解することができるからです。

(5)そして、ノートを構造的に整理して書くとは、言い換えると、情報のつながり方を意識して、どこに何が書いてあるか見やすく書くということです。

(6)もっと詳しく言えば、今どんな勉強をしているのか、何が問題なのか、自分はどう考えるのか、それはなぜか、などということ意識して、書く場所や書き方を考えて書くということです。

(7)たとえば、次のようなことが大切なのです。

単元名や見出しを書く

問題、答え、理由などを、分けて書く

大事なところを線で囲む

問題には番号を書く

縦と横の通りを揃える

間を空けて見やすくする

ダラダラ書かず、箇条書きにする

教科書の単元が変わったら、ノートのページを変える

(8)先ほど、「ノートを構造的に整理して書くことで、情報を構造的に理解することができる」と書きました。

- (9)そして、それは構造的に記憶することでもあります。
- (10)これは、ただ闇雲に記憶するよりも、記憶の定着という点でははるかに勝っています。
- (11)そして、ノートが構造的に書いてあると、「おさらい」がしやすいということもあります。
- (12)それは、どこに何が書いてあるかすぐわかるからです。
- (13)たとえ計算練習のようなノートの使い方としては単純なものでも、番号があるかないかで「おさらい」のしやすさは変わってきます。
- (14)番号を書くのは、構造的に書く上での基本中の基本なのですが、これがあれば「おさらい」も楽になります。
- (15)授業中、先生が「6 問目の問題を見てごらん」と言ったときも、さっとそこを見つけることができるわけです。

4. 「構造的に書く」と勉強が楽になる

- (1)ただ、カン違いしていただきたくないのですが、
「構造的にノートを書けない子は、学力が低い」ということではありません。
- (2)なぜなら、たとえ構造的に書けなくても、学力が高い子はいるからです。
- (3)子どもには個性があります。構造的に書くのが得意な子も苦手な子もいるのです。
たとえ、ノートが構造的に書けていないからといって、勉強ができないわけでは決してないのです。
ここをまず、カン違いしないようにしてください。
- (4)私が本書でお伝えしたいのは、「その逆はありますよ」ということです。
それは、構造的に書く習慣をつけることで、学力が上がるということです。
- (5)構造的に書けるように教えてあげれば、頭の中が構造的になります。
つまり、ものごとを構造的に整理できるようになり、思考力がついていくのです。
そして、知識の定着がよくなります。
- (6)構造的に書くコツを学べば、おさらいしやすいノートを書く習慣がつきます。今より勉強が楽になるのです。
「ここが大事」「ここは例」などと整理したり、授業中に先生が強調したところは赤字にするなど、工夫もできるようになります。
- (7)小学校6年間では、いろいろなものを書いて表さなければなりません。

理数系の思考の素地になる表やグラフ。理科の実験の手順をまとめたり、社会では年表を書くこともあります。

(8) ノートの取り方の基本を知っていれば、いろいろな書き方に対応できるだけでなく、効率よく知識を吸収し、自分のものにしていきます。

まさにノートを使って、できる子に育てていけるのです。

(9) その手助けをしてあげるために、本書を読み進めていただきたいと思います。

[コメント]

学力が高いか低いかを決めるのは次の2つです。

1. 読書を確実に積み重ね思慮深さを身に付けること(新聞を読んで考えることも読書に含まれます)
2. 学び方を学ぶ、(「学ぶ」には、うんなるほどと「理解」すること、十分「理解」したことを身につける、つまり「定着」させること、理解・定着したことを用いてテストでよい点が取れ、また社会で活用することができる、つまり「応用」できることの3つが含まれます)スキル・能力が身につけていること。英語で Learning To Learn(ラーニング・トゥ・ラーン「学習の学習」)と訳す人もいます。

「2番目の学び方を学ぶ」には「ノートの取り方」も入ります。では、どのようにノートを取り活用したらよいのか。

本書は、小学生のノートの作り方、活用法の本としては画期的なものです。わかりやすく、今日からでも実行できます。中学生でも、高校生でも、大学生でも、大学院生でも、社会人でも、いくらでも参考になります。是非お読み下さい。

- 2009年7月12日林明夫記 -

書き抜き読書ノート 282

2009年7月7日

「これからの学力は何か」OECD(経済協力開発機構)が何年もかけて大調査した結論...このキーコンピテンシーです。是非お読み下さい。

林 明夫

OECD 編「キー・コンピテンシー 国際標準の学力をめざして」

明石書店 2006年5月31日刊を読む

キー・コンピテンシーとは

コンピテンシーの3つのカテゴリー(キー・コンピテンシーには次の3つのカテゴリーがあります。<林>)

カテゴリー 1 相互作用的に道具を用いる(能力)

(1) グローバルな経済や情報社会の社会的専門的な需要として求められているのは、コンピュータのような物理的な道具(tool)と同様に、言語、情報、知識といった相互作用のための社会文化的な道具の熟達である。

必要な理由

- ・ 技術を最新のものにし続ける
- ・ 自分の目的に道具を合わせる
- ・ 世界と活発な対話をする

(2) 相互作用的な道具の活用において求められるのは、(たとえば、文章を読む、ソフトウェアを使用するなどのように)それを使いこなすために必要な技術的なスキルとその道具を自由に使うこと以上のものである。人々には、知識や技能を創造し、応用することが期待されている。求められているのは、道具それ自体に親しむこととともに、人が世界と相互作用する方法を道具がどのように変化させる

コンピテンシーの内容

- A 言語, シンボル, テクストを相互作用的に用いる
- B 知識や情報を相互作用的に用いる
- C 技術を相互作用的に用いる

か、またいっそう大きな目標を達成するためにどのようにいつも使うことができるかを理解することである。この意味で、道具は、単なる受動的なメディア装置ではなく、その人のまわりの環境とその人が積極的な対話を行う装置なのである。

(3) 各個人は、認知的、社会文化的、物理的なツールを通して世界と出会う。この出会いはさらに、個人がどのように意味を理解し、世界で有能となり、変容や変化に対応し、長期的な挑戦に応える方法を形作っていく。相互作用的なツールの活用は、個人が世界を知覚し、世界と関係を作る方法という点で新たな可能性を拓ける。

(4) 現在の国際的な調査、特に PISA と、カナダ統計局によって行われてきた成人のリテラシーとライフスキル調査(ALL)は、書かれた文章のように相互作用できる能力に関するキー・コンピテンシーの特徴についての経験的証拠を提供してくれる。

——コンピテンシー 1A：言語、シンボル、テキストを相互作用的に用いる能力

このキー・コンピテンシーは、さまざまな状況において、話して書くと言った言語的なスキルや、コンピュータまたは図表を用いるといった他の数学的なスキルを有効に利用するものである。これは、社会や職場でよりよく働き、他の人々との効果的な対話に参加するための必須の道具である。「コミュニケーション能力」や「リテラシー」という用語は、このキー・コンピテンシーと関係する。

PISA の読解力(reading literacy)と数学リテラシー(mathematical literacy)、および ALL で定義された計算リテラシー(numeracy)は、このキー・コンピテンシーを具体化したものである。

——コンピテンシー 1B：知識や情報を相互作用的に用いる能力

(1) サービスおよび情報産業分野の役割の増大と、現代社会における知識管理の核心的役割は、知識と情報の相互作用的な活用能力を人々にとって不可欠なものにしている。

(2)このキー・コンピテンシーに必要なのは、情報そのものの性質、つまり、その技術的基盤や社会的、文化的、思想的な背景と影響についてのよく考える力である。情報能力は、選択肢の理解、意見の形成、意思決定や情報に基づき責任をもって行ういろいろな活動の基礎として必要なものなのである。知識と情報の相互作用的な活用には次のことが求められる。

何がわかっていないかを知り、決定する

適切な情報源を特定し、位置づけ、アクセスする(サイバースペースでの知識と情報の収集を含む)

情報源に加えてその情報の質、適切さ、価値を評価する

知識と情報を整理する

(3)この具体的なキー・コンピテンシーは科学的にリテラシーであり、2006年のPISA調査の枠組みへと発展させている。生徒たちが科学的な探求活動にどれだけ進んで参加し交流しているかをこの調査では調べている。そこで求められるのは、認知的なスキルを用いる能力よりはむしろ、科学的な疑問にどれだけ関心を持っているかという点である。

——コンピテンシー 1C：技術を相互作用的に用いる能力

(1)技術革新は職場の内外で新たな要求を個人に求めてきた。同時に、技術の進歩は、新しい違った手法でこうした要求に効果的に応じる新しい機会を人々に提供している。

(2)対話などの相互作用に技術を用いることは、新しい手法に気づくことを私たち個人に求めるだけでなく、その手法を通じて、毎日の生活に技術を活用できることを示している。情報やコミュニケーションの技術は次のような可能性を秘めている。たとえば、どこにいるかには関わりなく共に働く方法を変え、膨大な量の情報資源をたやすく利用できることで情報利用の機会を与え、いつもの場所にいながらにして世界中の人々とのつながりやネットワークを促進することで、他の人と対話する可能性である。そうした可能性を活かすためにも、単にインターネットや e-mail を使うのに必要とされる基礎的なスキル以上のものが人にはこれから求められるのである。

(3)他の道具と同じように、利用者が技術の性質を理解してその潜在的な可能性について考えれば、技術はいっそう相互作用的に用いることができる。もっと重要な点は、こうした技術的な道具に眠る可能性を人が自分たちの共通の実践の中に技術を組み込んでいくことであり、そうすれば技術への親近感を高めてその活用の幅をいっそう大きなものにしていくことができよう。

コンピテンシーの3つのカテゴリーの第2

カテゴリー 2 異質な集団で交流する(能力)

(1)人生を通じて、人間は物質的・心理的に生存するためにも、そして社会的なアイデンティティの獲得という面でも、他の人々とのつながりに依存している。社会がいろいろな点でいっそう断片化し、多様化するようになってきている時に、個人間の人間関係をうまく管理することは、個人の利益からも新しい形の協力関係を作る上でいっそう重要になってきている。既存の社会的な絆が弱められつつある時、強い絆を形作る能力をもつ人々が新しい絆を作りだすように、人間関係のような社会的資本の構築が重要なのである。

必要な理由

- ・多元的社会の多様性に対応する
- ・思いやりの重要性
- ・社会的資本の重要性

コンピテンシーの内容

- A 他人と良い関係を作る
- B 協力する。チームで働く
- C 争いを処理し、解決する

(2)将来における不公平な資源配分の1つの可能性は、社会関係を作りそこから利益を得る能力がいろいろなグループで異なることだろう。

(3)このカテゴリーのキー・コンピテンシーは、他の人々と共に学び、生活し、働くことを個人に求める。「社会的能力」、「ソーシャルスキル」、「異文化間能力」、「柔軟な能力」といった用語に関係した多くの特徴にこのキー・コンピテンシーはあてはまる。

——コンピテンシー 2A：他人と良い関係を作る能力

(1)その第一のキー・コンピテンシーは、知人や同僚、顧客との間で個人的な関係を持ち始めることから、それを維持し、管理する力である。良好な関係作りは、社会的な団結のためだけでなく、だんだんと経済的な成功の必要条件ともなっていており、変化する企業や経済は情動的な知能にも重要な価値を置くようになりつつある。

(2)このコンピテンシーが仮定しているのは、人が自分がよいと感じる環境を創り出すためには他の人の価値観、信念、文化や歴史を尊敬し評価できるだけでなく、それらを取り入れて成長するということである。他の人々とうまく協力していく必要条件是次の点である。

共感性—他人の立場に立ち、その人の観点から状況を想像する。これは内省を促し、広い範囲の意見や思念を考える時、自分にとって当然だと思ふような状況が他の人に必ずしも共有されるわけではないことに気づく

情動と意欲の状態と他の人の状態を効果的に読み取る

——コンピテンシー 2B：協力する能力

(1)多くの要求と目標は個人単独では対処することができないが、代わりに作業チームや市民運動、経営グループ、政党もしくは労働組合などのように、グループで力を合わせて同じ利害を共有する人々にはそうした要求や目標を求めることができる。

(2) 協力に必要なのは、個々人が一定の資質を持つことである。その個々人に求められるのは、自身自身の優先順序の中でグループを分け合い他者を支援することができなければならない。
このコンピテンシーの特定の構成要素としては次のものがある。

自分のアイデアを出し、他の人のアイデアを傾聴する力

討議の力関係を解し、基本方針に従うこと

戦略的若しくは持続可能な協力関係を作る力

交渉する力

異なる反対意見を考慮して決定できる包容力

——コンピテンシー 2C：争いを処理し、解決する能力

(1) 家庭や職場、あるいはより大きな地域共同体や社会を含め、争いは生活のあらゆる局面で生じる。争いは社会的実現の一部であり、人間関係に固有の部分でもある。2人あるいはそれ以上の個人やグループが多様な要求、利害、目標あるいは価値観を理由に互いに対立するとき争いが生じる。

(2) 建設的な方法で争いに取り組む鍵は、争いを否定しようとするよりも、何かを行うための1つのプロセスとして争いを認識することである。そのために必要とされるのは、他方のニーズと利害を考慮しながら両方が利益を得られるような解決策の工夫である。

個人が争いを処理し解決する積極的な役割を担うために、以下の能力が必要となる。

できるだけ異なる立場があることを知り、現状の課題と危機にさらされている利害(たとえば、権力、メリットの認識、仕事の配分、公正)、すべての面から争いの原因と理由を分析する

合意できる領域と理由を分析する

問題を再構成する

進んで妥協できる部分とその条件を決めながら、要求と目標の優先順位をつける

コンピテンシーの3つのカテゴリーの第3

カテゴリー3 自律的に活動する(能力)

(1) 自律的に活動するとは、社会的に孤立して働くことを意味するのではない。反対に、個人が、自分の社会的な関係や自分が果たしている役割と果たしたい役割といった自分の環境に気づくことが求められる。自分の生活と労働条件にわたる調整を行いながら自分の生活を意味あるものにして責任をもつことが人に求められるのである。社会の発展に効果的に参加し、職場や家庭生活、社会生活を含む生活のそれぞれの面でよりよく働くためにも、個人は自律的に活動しなければならない。その理由は、大勢に従うだけではなく、むしろ独立した自己を成長させ、選択を行う必要からである。そうすることで、人は自分の価値と活動について考えようとする。

必要な理由

- ・ 複雑な社会で自分のアイデンティティを実現し、目標を設定する
- ・ 権利を行使して責任を取る
- ・ 自分の環境を理解してその働きを知る

コンピテンシーの内容

- A 大きな展望の中で活動する
- B 人生計画や個人的プロジェクトを設計し実行する
- C 自らの権利、利害、限界やニーズを表明する

(2) 現代社会はそれぞれの人の立場が伝統的な社会の場合のように明確に定義されていないから、自律的に活動することが特に重要なのである。自分たちの生活に意味を与え、社会にうまく適応する仕方を決めていくためにも、個人的なアイデンティティを創り出そうとする。その1つの例を仕事にみるなら、1人の雇用者のもとで働くような安定した生涯にわたる職業などほとんどない。

(3) 一般に、自律性を要求するのは、自分が果たしている役割と果たしたい役割、そして社会的関係といった自分の環境への気づきと将来への方向性である。しっかりした自己概念を持ち、意思を持った行為、つまり決定や選択、そして実際の活動に欲求や要求を置きかえる能力を、この自律性は前提としている。

—コンピテンシー 3A：大きな展望の中で活動する能力

(1) このキー・コンピテンシーが個人に求めるのは、自分の行為や決定をいっそう広い文脈で理解し考える力である。つまり、自分たちが他のものとどのように関係しているかを考慮すること、たとえば社会的なルールや社会的、経済的な組織、そして過去の起こった出来事との関係を考えることが求められる。人は、自分自身の行為や決定がこうした広い図のどこにどのようにあてはまるかを知る必要がある。

(2) たとえば、このコンピテンシーとしては次のようなものがある。

パターンの認識

自分たちが存在しているシステムについての理想を持つ(たとえば、その構造や文化、実践、公式・非公式なルールや期待、その中で果たす役割を理解し、法律や規則、また文書化されていない社会的規範や道徳作法、マナーや習慣を理解する)。こうした行為を制約する知識をもつことで権利についての理解を補う

自分の行為の直接的・間接的な結果を知る

個人及び共通の規範や目標に照らして起こりうる結果を考えながら、違う道に至る行為から選択を行う

——コンピテンシー 3B：人生計画や個人的プロジェクトを設計し実行する能力

(1)このコンピテンシーは個人の活動計画を考えるために役立つ。自分の人生をまとめた物語と見なし、バラバラになりがちな人生について、変化する環境の中でそこに意味と目的を与えることが求められる。

(2)このコンピテンシーの前提は、楽観主義と自分の可能性、そして実現可能な領域での堅実な土台をも含んだ将来への展望である。各個人に求められるものとしては次のようなものがある。

計画を決め、目標を定める

自分が利用できる資源と必要な資源を知り、現状評価する(時間、お金など)

目標の優先順位を決め、整理する

多様な目標に照らして必要な資源のバランスを取る

過去の行いから学び、将来の成果を計画する

進歩をチェックし、計画の進展に応じて必要な調整を行う

——コンピテンシー 3C：自らの権利、利害、限界やニーズを表明する能力

(1)このコンピテンシーは、高度の制度化された法的な事項から、個人的な利害の主張を含む日常的な事例にいたるまでの広い状況で重要となる。多くの権利や要求は法律や契約が作られ擁護されているが、他の人々のものと同じように個人がその権利や要求、利益を知って自ら評価し、また積極的に主張して守るのは、最終的には個人しだいである。

(2)他方、このコンピテンシーは、その人自身の権利や要求に関わるものだが、一方では集団のメンバーとしての権利や要求にも関係している。たとえば、民主的な団体や地方と国の政治活動への積極的な参加など。このコンピテンシーが求める能力としては次のものがある。

選挙などのように自分の利害関心を理解する

個々のケースの基礎となる文書化された規則や原則を知る

承認された権利や要求を自分のものとするための根拠を持つ

処理法や代替的な解決策を指示する

キー・コンピテンシーと生涯学習

(1)これまで述べてきた考え方は、学校で習得されるべきコンピテンシーと人生のそれぞれの段階で発達させるべきコンピテンシーに等しくあてはまる。学校を基盤とした調査研究にも成人のコンピテンシーの調査研究にもこの1つの枠組みを提供することができる。生涯学習という考え方の中には、生活に関連したコンピテンシーのすべてを学校教育だけでは提供できないという主張がある。

(2)その理由は、以下のとおりである。

コンピテンシーは、生涯にわたり成長し変化する。年をとるにしたがって、コンピテンスを得ていく可能性と失っていく可能性を伴いながら

各個人への社会的要求は、技術や社会経済的な構造の変化の結果として成人の人生を通じて変化することが予想される

コンピテンスの発達は、青年期だけで終わるのではなく、成人期を通じても継続することを発達心理学の研究が示している。特に、枠組みの中心となる、考える能力と思慮をもって活動する能力は、成熟に伴って成長する

(3)コンピテンシーの発達の理解は、教育と評価研究にとって重要な意味がある。人間の発達の進化的モデルは、成人教育の目的のための理論的な基礎を提供する。さらに、共通の一般的な基準に対して人生を通じての各個人のコンピテンシーを評価する説得力のある理由を提供するとともに、青年期と成人期にわたる首尾一貫した全体的な評価戦略のデザインを提供する。

P210 ~ 221

[コメント]

(1)OECDのPISA(15歳時の国際標準学力調査)の基底となっている学力観に3つの「キー・コンピテンシーズ」があります。この「キー・コンピテンシーズ」は学校時代だけでなく、生涯にわたって少しずつ自分なりの方法で身につけるべきものと考えます。仕事や社会活動、家庭生活、個人生活など人間の「人生の成功」と「正常に機能する社会」にとり必要不可欠な能力だからです。

(2)この「キー・コンピテンシーズ」を身につけるためには、幅広い読書による熟慮、熟考、省察を重ね、「思慮深さ」を身につけること、及び「Learning To Learn ラーニング・トゥ・ラーン」つまり「学び方を学ぶ」スキル・能力が大切な条件として考えられます。

(3)私はこのキー・コンピテンシーズとその2つの前提条件を人間の大切な「宝物」、「知的資産」

と考え、この世の中に住む一人ひとりが少しずつでもいいから、生涯にわたって身につける努力をしたらよいと考えます。

- 2009年7月7日林明夫記 -

CRT 栃木放送『開倫塾の時間』

2009年4月18日(土)放送内容資料

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

2年後からは、小学校でも英語が必修になります。4月12日の下野新聞によりますと、栃木県では、8割の小学校が前倒しで、今年から英語教育を実施するとのこと。1年間に約35時間の英語の授業を計画しているそうです。

県内の30市町村の教育委員会によりますと、今年は325校が指導要領を前倒しする形で、年間35時間以上の授業を計画しています。栃木県内には全部で402の小学校がありますから、その81%に相当します。これは非常によいことではないかと私は思います。

ただ、問題点がいくつかあります。1つめは、1週間に1回、45分の授業でよいのかということです。私は、語学であれば、できれば1週間に3回、もっと言えば毎日のように授業があったほうがよいと思います。学校では年間に35週授業を行いますので、1週間に3回くらい英語の授業をやっていると、最低でも1年間に100時間となり、英語の力がついてくると思われます。ちなみに、学校の授業は年間に35週分と言われています。35時間が1つの単位になります。これも、皆さんにぜひ覚えておいていただきたいと思います。

問題点の1つめは、英語の授業時間があまりにも少なすぎるということです。

2つめは、誰が教えるのかという問題です。教える先生が十分に揃っていませんので、小学校の場合は、クラス担任の先生が英語を教える可能性が高くなります。小学校のクラス担任の先生は英語が得意かと言いますと、言いにくいことですが得意な先生ばかりではありません。ですから、クラス担任の先生は自分で英語の勉強をしてから教えていただきたいと思います。

きつい言い方をしますと、ピアノの弾けない人がいくら熱心に教えても、教わる生徒は弾けるようにはなりません。また、水泳のよくできないコーチが水泳を教えても、教わる生徒は上手に泳げるようにはなりません。同様に、英語に堪能でない人がいくら教えても、子どもたちは英語が上手にできるようにはならないのです。

では、教える先生はどのくらいできればよいのでしょうか。英語の新聞がスラスラ読めるというのが最低のラインですので、教える先生は英字新聞を毎日購読して、それがスラスラ読めるようになるまで勉強していただきたいと思います。

ただ、全国的には 2 年後から実施する小学校での英語教育を、栃木県では県内の 8 割にあたる小学校がその準備を新年度から始めるということで、非常に頑張っています。小学校の先生方は大変ですが、英語教育に邁進していただきたいと思います。

それから、同日の下野新聞を読んでいましたら、以前にオマーンやネパールで大使をされた神永善次先生が、「日曜論壇」にすばらしい文章を書いていらっしゃいました。栃木県の県勢を高めるためには 11 の大事なことがあるという「県勢発揚 11 力条を提案」と題した文章です。これを少し紹介させていただきます。

神永先生は、私の尊敬するすばらしい方で、先週も 2 時間ほど個人的にお話をお伺いする機会がありました。

神永先生は、栃木県と世界、東京・関西に人生の三分の一ずつを住まわれ、そこで過ごしていらっしゃいます。そして、それぞれの土地から栃木県を見つめて、県勢の輝く発揚を願ってこられました。その思いを 11 力条にまとめたものが、前述の文章です。

一番大事なことは、自分自身でまずは県の姿を知ることです。栃木県は、那須を扇の要に、東南に八溝山系、西南に日光足尾山地が走り、扇の腹の南の境を渡良瀬川と水戸線北部が区切っています。関東平野や首都圏の北の奥座敷です。また、縄文以来の歴史があり、中世には小山や足利、宇都宮、那須といった諸藩が割拠して、あるいは連衡して、外側の白河や陸奥、上野（こうずけ）、武蔵などの諸藩と戦いつつこの地を守ってきたというすばらしい歴史があります。これらのことをまず知ったほうがよいということです。

次は、豊かな自然を知り、活かすことが大事であるということです。栃木県は豊かな水と緑に恵まれています。里山や深山（奥深い山）がありますので、それらをよく知り活かすことが大事です。例えば、みかん栽培の北限、リンゴ栽培の南限は栃木県です。また、サケの大量遡上の南限でもあります。それから、地震や台風、雨、雪の被害が非常に少ないめずらしい土地です。このような特色のある栃木県ですから、農業や教育、観光、別荘、転地（移り住む場所）として、最後は老後生活を送る場所として適しています。この豊かな自然のすばらしさを知り尽くして活かすことが大事であるというのが、2 つめです。

3 つめは、産業立地が優れているので、この好条件を活かしたほうがよいということです。豊かな水・澄んだ空気は、精密機械や先端技術にとっては非常に好い条件です。また、首都圏を背景にして幹線道路が走り、港や飛行場へのアクセスもよいですから、産業立地として優れています。神永先生は、この好条件を活かしたほうがよいともおっしゃっています。

そのほかにも、優れた人材を輩出する伝統を誇りとしたほうがよいこと、日本一の気構えを持つことがたくさんあること、世界一を目指すにはどうしたらよいかということ、当世随一の教育を行うことが大事であること、研究機関（シンクタンク）を作ったほうがよいこと、安全と福祉の確認・増進を図ること、自治と和の魂の精神を頑張って持ち、最終的には地方力を取り戻すことが大事であるということなどについて、すばらしい文章を書いています。

皆様もぜひ栃木県のよさを考え、そのよさを活かして 21 世紀をリードし日本の鏡となるべく、栃木県の県勢を高めてもらいたいと神永先生はおっしゃっています。私もその通りだと思います。皆様はどのようにお考えでしょうか。